

(シンポジウム紹介)

近年、赤外線分光法を利用した光脳機能イメージング装置を用いた研究が盛んに行われ、非侵襲な脳機能計測の有力な方法の一つとして普及してきています。一方、信号の処理方法や得られた結果の解釈が完全に確立されていないなどの問題もあり、この技術の確立には学際的な研究活動が必要となっています。また、最近では、脳内の神経活動を計測し、その計測された信号によって機械を操作する Brain-Computer Interface (BCI) 技術が提案されており、障害者の支援やリハビリテーションへの応用が可能となる新しい技術として注目を集めています。

日本大学では、連携研究組織「ブレイン・コンピュータ・インターフェース (BCI) 研究会」を平成 21 年 5 月に設立し、赤外線分光法を利用した脳機能計測に関する連携研究を実施してきました。平成 22 年度に、日本大学学部連携研究推進シンポジウムとして、第 1 回 NU-Brain シンポジウム (光脳機能イメージングの研究開発および臨床応用に関するシンポジウム) を開催し、大きな反響がありました。本年度は、さらにシンポジウムの内容を拡大し、本研究に関係が深い研究者を招待講演者としてお招きすると同時に、これまでの日本大学の連携研究活動の成果を公表することにより、近赤外線分光法を利用した脳機能計測に関心の高い研究者間の情報交換の場と研究協力促進の機会を提供することを目的としています。この分野に関心ある研究者、技術者、学生など多くの方の参加をお待ちしております。